

## タイトル

# 「車座（くるまざ）空間」から始まる「つながり」プロジェクト

## 応募者

### 松橋佳奈子さん（愛知県、団体職員）

## アイデアについて

### ①アイデアのタイトル

「車座（くるまざ）空間」から始まる「つながり」プロジェクト

### ②アイデアの対象となるお寺の環境は？（例：過疎地・過密地・市街地・農村・漁村・島等）

過密地、市街地など

### ③アイデアの対象となる人たちは？（例：地域の子どもたち、小さい子を持つお母さん、若者等）

老若男女

通りがかりの人も含めてそのお寺に何らかの接点を持つ人すべて

### ④アイデアの概要（目的・方法・効果などを、200字程度でお書き下さい。）

焚き火など人がまるく何かを囲む時、知らない人同士であってもそこに何らかの「連帯感」「つながり」が生まれる。また、焚き火などの跡を眺めるだけでも、そこに残った「温かさ」を感じることができる。このことを利用して生まれたアイデアが、“「車座空間」から始まる「つながり」プロジェクト”である。

【目的】過密地や市街地という一般的に慌ただしい空間において、訪れた人がほっと安らぎ、見ず知らずの人同士であっても「つながり」を持つことができる場をつくる。

【方法】過密地および市街地のお寺に「車座」の形をイメージした空間（ベンチなどを円形に設置し、その中心部は空けておく）をつくる。また時々、参加型のイベントとして、火を使って「焼き芋」「甘酒」「菓草茶」を作ったり、「詩などの朗読」「楽器演奏」などを自由な発想で行う。

【効果】お寺を訪れる人にとって、お寺が休息と気分転換の場となる。さらにイベントに参加したり企画を行うことで「自己表現」「自己実現」をすることもできる。また、お寺は地域社会を支える重要な場となり、このプロジェクトを通して地域コミュニティが育まれていく。

## ⑤アイデアの内容（アイデアについてできるだけ詳しくお書き下さい。）

### ■アイデアのきっかけ

右写真は、応募者がアメリカの先住民族のある集落を訪れ「焚き火」の跡を見つけた時の様子。そこに人々が集まり火を囲んでいた風景が想像でき、その場所に立っただけで言葉や文化の壁を超えて「温かさ」やエネルギーを感じることができる。

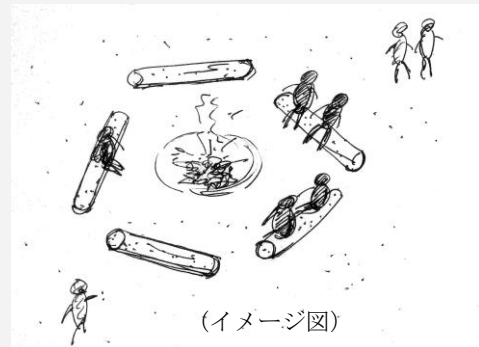
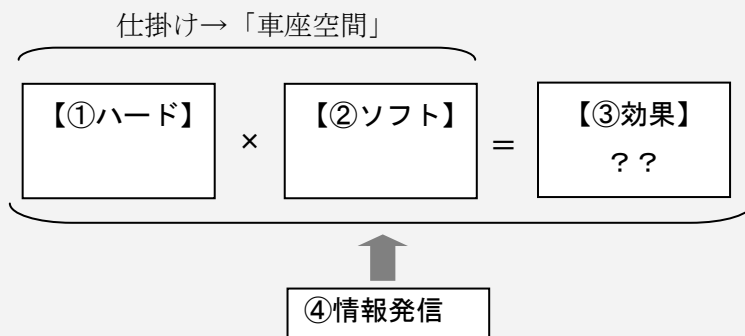
焚き火など人がまわって何かを囲む時、知らない人同士であってもそこに何らかの「連帯感」「つながり」が生まれる。

このことをお寺の活用にも生かしたいと考え、“「車座空間」から始まる「つながり」プロジェクト”を提案する。



### ■提案内容

このプロジェクトの仕掛けは「①ハード」「②ソフト」であり、その掛け合わせによってさまざまな「③効果」が生まれる。また、全国にもこのプロジェクトを広げていくために、ソーシャルメディア等を活用した「④情報発信」も積極的に行う。



#### ①ハード

右図のように、お寺のどこかに丸太やベンチなどを円を描くように配置する。これだけのことで「人が集う場である」ことを暗示するような雰囲気になる。

#### ②ソフト

車座空間では、参加型のイベントとして、火を使って「焼き芋」「甘酒」「薬草茶」を作ったり、「詩などの朗読」「楽器演奏」などを自由な発想で不定期に行う。お寺の関係者だけでなく、一般の人も自由に企画を持ち込み実施できる仕組みをつくる。

#### ③効果

お寺を訪れる人にとって：お寺に対する意識が変わり、気軽に立ち寄れる休息や気分転換のための場となる。さらにイベント等に参加したり自ら企画を行うことで「自己表現」「自己実現」の場にもなる。

お寺にとって：これまでお寺を訪れなかったような人も含めて多くの人がお寺を訪れ、お寺でのイベント企画などを通してお寺に関わる人も増えていく。お寺が地域社会を支える重要な場となる。

地域にとって：このプロジェクトを通して、お寺を中心とした地域コミュニティが育成されていく。

#### ④情報発信

このプロジェクトを特定エリアに限定するのではなく全国に広げていくために、お寺の「facebook ページ」を開設し、「車座空間」の日常の風景やイベント告知・レポートなどの情報を発信する。また、新聞や地域の広報誌への記事掲載依頼なども行き、老若男女に広く情報発信できるように工夫する。

## ⑥添付資料（ここに記入しきれない内容、イラスト、写真、作品等の資料があれば別途添付して下さい。）

あり（ ） ・ なし